

当（6,597万円）を実施した。

前川組合長は「新型コロナの影響は特に酪農畜産で大

きい。国など行政に具体的な対応を願う」と述べた。

取扱販売高が過去最高 坂井組合長を再任 J A 大樹町

2020年5月30日

【大樹】J A 大樹町（坂井正喜組合長、組合員285人）の第72回通常総会が29日、同J A 事務所で開かれた。2019年度の取扱販売高は147億9,415万円で過去最高だった18年度を7.6%上回り、6年連続で増加した。生乳生産量は11万1,854トン（前年度比3.6%増）と初めて11万トンを突破した。総会後の理事会では坂井組合長（70）が再任された。坂井組合長は08年から現職。

畜産の取扱販売高は前年度比8.6%増の132億9,544万円、そのうち生乳が7.5%増の98億7,678万円。農産物は0.4%減の14億9,800万円だった。

生乳生産は、牧草や飼料用トウモロコシの順調な生育、飼養管理技術の充実などが年度目標を上回る要因となった。育成・初妊牛や肉牛も高値傾向が続いた。農作物は小麦が過去最高の収量だった。

当期剰余金は1億5,106万円、前期からの繰り越し分

などを加えた当期末処分剰余金は1億8,276万円だった。

新年度は、総取扱販売高140億円以上の継続、生乳生産12万トンを目指すとした。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、総会は書面議決を主とした。坂井組合長は「新型コロナの影響が不透明な中、相互扶助や共存共栄といった農協の原点に立ち返り、役職員が一丸となって事業を進めたい」とあいさつした。

販売高 最高の223億円 木幡組合長を再任 J A 鹿追町

2020年5月31日

【鹿追】J A 鹿追町（木幡浩喜組合長、組合員272人）の第72回通常総会が29日、同J A で開かれた。2019年度は主力の酪農・畜産、畑作ともに好調で、農畜産物販売高（数量払い含む）は同J A 史上最高の223億8,951万円（前年度比6.6%増）を記録した。役員改選では木幡組合長らを再任した。

生乳生産は11万6,059トン（前年度比3.1%増）で4年連続11万トンを突破。畜産物も相場が高値で推移し、酪農・畜産の販売高は164億1,117万円（同5.2%増）に達した。畑作では、馬鈴しょの価格下落はあったものの、前年に不作だった小麦や加工用キャベツが高収量となり、全体では59億7,834万円（同10.7%増）だった。

経常利益は4億4,054万円（同4.7%増）。16年度に建て替えた瓜幕事業所を減損処理し、当期末処分剰余金は3億7,487万円（同10.3%減）となった。

総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面議決を中心に開催。今年度は、昨年度までに整備した第2 TMR センターや種子馬鈴しょ貯蔵施設などを活用し、生産性向上を図る。また、22年度からの次期農業振興基本計画策定に向けた取り組みをスタートする。木幡組合長は「新型コロナが農業にどれだけ影響してくるか注視し、生産者の声が国にも届くように対応していきたい」と述べた。

販売額4.3%減の58億円 生乳生産減響く J A 陸別町

2020年6月2日

【陸別】J A 陸別町（西岡悦夫組合長、組合員109人）の今年度通常総会が28日、同J A で開かれた。2019年度の農畜産物総販売額は、前年度比4.3%減の58億691万円（補給金込み額は61億3,200万円）だった。

総会には、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策で書面による出席86人を含む101人が出席した。

販売の内訳は、生乳生産は同3.5%減4万46トンで販売額37億3,100万円（交付金などを除く）。飼料の品質低下が見られ、乳量に影響した。畜産販売は5,216頭で同9.4%減20億3,500万円（同）だった。

今年度に5カ年計画でスタートする第7次地域農業振

興計画、J A 中期経営計画の生産目標は、生乳4万5,000トンを見込む。規模拡大など施設の充実や、家族経営の経営基盤強化として新規投資に力を入れる。

酪農を基幹産業とする同J A 単独の取り組みも報告。理事会で協議して進めている牛乳・乳製品の消費拡大対策では、同J A やAコープ陸別店、ジャスターの来店者に200ミリリットル入り牛乳パック1本を6月末まで無